五月十七日

○在「デリー」「ニューズクロニクル」特派員ハ左ノ趣旨ヲ報道ス

「ガンディー」及「コングレス」指導者ノ逮捕後ニ生ジタル最近非常事態ハ存在セザル至レリ驚愕ト罷業ハ最近二週間月ヲ追テ次第ニ減少シ来リ州政府ノ或ルモノハ釈放中ナリシモ「ガンディー」及「コングレス」指導者ハ依然印度ノ戰爭努力ニ對スル極メテ明確ナル危険ト看做サレ居ルヲ以テ其ノ釈放ハ問題トナラズ（里斯本情報）

五月二十日

○印度事務大臣「アメリー」ハ下院ニ於テ「コングレス」驚愕ニ關係シ有罪ト決定セラレ在監中ノ者三四、八九八名ニシテ尚無期限拘留中ノ者一一、六一三名（三月十五日現在數ニシテ西北邊境州ヲ含マズ）ナル旨發明ス（BBC短波放送）

五月二十六日

○印度總督「リンリスゴウ」ハ十月以降更ニ一ケ年間總督ノ任務延長ヲ受諾シタル趣ナリ（BBC）

五月二十七日

○「アイシャバード」中繼ハ重慶ニ於ケル記者團ノ會見ニ於テ六年前ニ比シ印度派軍ニ於テ十八倍人員ニ於テ十七倍以上增加セル旨述ブ（在「カイロ」帝國公使情報）

五月二十八日

○印度政府ハ「ガンディー」ヨリノ「デンリー」短波放送書簡傳達方ヲ拒否セル趣ナリ（「ニューデリー」短波放送）

濠洲

五月四日

○金屬工業勞働者約三萬以上一齊ニ就業ヲ拒否罷業ヲ開始ス

五月十三日

○米西面太平洋艦隊司令官「ハルゼー」ハ「ナンプアー」ヲ訪問シ西南太平洋方面反軍動態海空軍ノ協同聯絡強化ニ關シ協議セル處南者ノ意見一致セル旨司令部ヨリ發表セラル（ABC）

五月十八日

○首相「カーチン」ハ日本潜水艦ニ依リ撃沈セラレタル病院船「モントール」號事件ニ關シ政府ハ日本政府ニ抗議ヲ提出セル旨發表ス（ABC）

○「カーチン」首相ハ議會ヲ六月二十一日開會スル豫定ナル旨發表ス（ABC）

五月二十日

○戰後再建大臣「チフレー」ハ戰後經濟計畫ニ關スル發表ヲナス

○勞働組合ハ失業者及疾病者救濟計畫ヲ決定シ右法案ヲ次期議會ニ提出セル由、尚右ニ要スル經費ハ第一ケ年約一千萬磅（ABC）。

○「フォード」陸相ハ「チャーチル」首相ノ最近ナセル演說ハ濠洲人ニ希望ヲ與フルモノニシテ特ニ濠洲ニトリ注目ス可キハ今次戰爭ノ主要役割ハ目下印度ノ東洋岸ニ待機シ居ル强大ナル英海空軍ニ依リ爲サルベキ事及ビ獨逸打倒後一主義ヲ堅持スルモノニ非ズト述ベ居レル點ナリト聲明ス（ABC）

五月二十一日

「○フォード」陸相ハ中東ニ於ケル濠洲海外派遣軍ノ損害ニ付左ノ通リ發表ス（ABC）

中東ニ於ケル損害

(イ)	傷病者	戰死
	計	不明者
	内	捕虜
	他	傷病者
	計	戰死
	内	不明者
	捕虜

聯邦下院議員ノ任期満了前適當ナル時期（秋期）ニ行フ豫定ナル旨發表ス（A B C）

五月二十五日

○「ヌーチン」首相ハ今般蘂洲政府ニ於テ英米蘇波各國ノ合意ニ依リ聯合國共通ノ利益ノ爲蘇聯ニ於ケル波蘭ノ權益ヲ代表スルコトトナレル旨發表ス（A B C）

○英蘇同盟條約一周年記念ニ際シ「ヴイチン」首相ハ英「ソ」兩國ハ同條約ニヨリ獨逸勝利ヲ得ル迄戰爭ヲ共同遂行スルノミナラズ戰後二十年間強力スル「メルボルン」ニ流賓會開催セラレ夫々二千人以上ノ參加者アリタル由ナリ（A B C 三十一日）

五月二十七日

○五月現在蘂洲聯邦及洲內外公債總額ハ十九億五千萬蘂磅ナリト發表セラル（A B C 放送）尚二九四一年六月現在總額ハ十四億二千七百萬蘂磅ナリ

五月二十八日

○從來食糧品ハ在蘂洲軍隊ニ對スル流師ハ軍需省ニ於テ、又市民ニ對スルモノハ農商務省ニ於テ行ヒ居タル處最近食糧不足セル蘂洲ニ於テ一元的ニ統制シ增產ヲ圖ルコトトナレル趣ナリ（A B C）

○「コルベット」一隻進水セル旨發表セラル（A B C）

○勞働爭議防止ノ爲軍需產業ノ雇傭者、勞働者側ノ何レタルヲ問ハズ法律上ノ正當理由ナク罷業中止ニ至ラシメタルモノニハ兵役免除ノ特典ヲ取消シ軍務ニ召集スルカ又健康ニ適セザルモノハ他ノ方面ニ徵用スルコトモリ（A B C）

五月三十日

○「ビーズレー」船相ハ日本潛水艦ノ脅威ニ鑑ミ何人モ船ノ行動ニ關シ厳密ヲ嚴守スル機密告ヲ發ス（A B C）

五月三十一日

○「スカリー」農商務相ハ蘂洲ノ食糧品生產ハ開戰當時ヨリモ增大シ居リ特ニ麦大ナル小麥滯貨アリト逃ブ（A C）

○「ファデン」反對黨々首ハ蘂洲統一黨及地方黨ノ政綱ヲ發表ス（A B C）

五月一日

○「ロ」大統領ハ內務次官「ロルド・イキーズ」ニ對シ肥料業炭坑ノ接收命令ヲ發ス

五月二日

○「ロ」大統領ハ二日大統領官邸カラ全米ニ向ケ「ラヂオ」放送演說ヲ行ヒ爭議中ノ炭坑勞働者ニ對シ職場復歸ト戰爭協力トヲ要請ス

○鑛山勞働組合長「ジョン・ルイス」ハ二日午前華府ニ於テ內務長官「イキーズ」並ニ勞働調停居長官「スタイナー」ト會見後華盛頓ニ歸還シ炭坑勞働組合ノ政策委員會ニ於テ次ノ對策ヲ決定ス

一、四日カラ十五日間一切ノ炭坑ニ於テ即時操業ヲ開始ス

一、休戰期間內ニ新勞働契約ヲ案出スル樣努力ス

五月三日

○武器貸與局長官「スチニアス」ハ五月三日米國武器貸與實績ニ關スル報告ヲ行フ

○三日朝「ベルトス」中將略下ノ米第二軍ハ佛領軍ヲ先導ヲ「マンヂール」ヲ占領ス

○華府ニ於テ大西洋憲章ニ調印ノ爲訪米ノ英利比亞首相「ベニキ」ランダ」ハ三日「ブロッダ」州ノ「マイアミ」ニ到着ス

五月四日

○五月四日源泉課稅法案下院ヲ通過シ上院財政委員會ハ五月八日、十三票對八票ヲ以テ之ヲ可決ス

○戰時生產局長官「ドナルド・ネルソン」三月ノ米國軍需生產狀況ヲ發表ス

○「イキーズ」內務長官ハ四日炭坑夫側ノ復業開始後炭坑勞働者ノ勞働條件ヲ次ノ如ク變更スル旨發表ス

一、全國炭坑業ニ一週六日勞働制ヲ實施ス（從來ハ一週五日制）

一、一週六日ハ內最後ノ一日ハ勞働ニ對シテハ時間外勞働ノ規定ニ準ジテ賃金ヲ支拂フ

○海外放送局長官「レーマン」ハ約四週間ノ訪英旗行ヲ終ヘ歸華ス（官用電）

五月五日

○英利比亞大統領「ベニキ」ランダ」ハ五日「ロ」大統領ト正式會見ヲ行ヒ反軸國同盟條約ニ署名ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
REEL No. 調-0042